



### 第3回(平成29年度) 日建連 けんせつ小町活躍推進表彰 受賞内容



|            |     |                  |                                      |
|------------|-----|------------------|--------------------------------------|
| <b>優秀賞</b> | 会社名 | <b>株式会社竹中土木</b>  | 活動主体の名称(30字以内)                       |
|            | 部署名 | <b>東京本店直轄作業所</b> | <b>組織的支援による女性技術者の「育児」と「監理技術者」の両立</b> |

**活動の概要 (100字以内)**  
 建設現場において作業所長や監理技術者を務める女性職員が極めて少ない中、当社においては、子育て中の女性技術者が監理技術者の職務を遂行できるよう、会社の協力のもとに組織体制を確立し、現場運営に取り組んだ。

|                               |                        |  |   |
|-------------------------------|------------------------|--|---|
| <b>女性の活躍推進に資する活動の目的、内容、効果</b> | <b>背景・目的</b>           | <p>◇3人の育児(2歳、5歳、9歳)のため、限られた時間の勤務でありながら、現場への配属、さらには監理技術者という責任ある職務を任された。監理技術者は工事を統括的に監理する責任者であり、限られた時間の中では、求められるすべての業務を全うする事は物理的に難しかった。</p> <p>◇こなしきれない業務の負担を他の作業所に強いることは、人員に余裕のない作業所にも負担になる。</p> <p>◇このような状況の中、自ら持てる能力と成果を最大限に発揮させることを目的として、社内組織の相互支援のもと、子育て中の女性職員の業務を支持する体制の確立が必要であった。</p>   | <p><b>関連する写真等を貼付</b></p> <p style="text-align: center;">土壌環境グループが一体となり、作業所所属の女性監理技術者をバックアップ</p> <p style="text-align: center;">各部署からのサポートを受けながら、職員・協力業者と協力し、監理技術者として確実かつ安全な現場の進行に努め</p> |
|                               | <b>主な内容 (具体例等)</b>     | <p>◇当社では、土壌浄化工事を専門とするグループを、女性が活躍できる場の1つとして位置づけていた。当作業所は、このグループの中で、社内組織の相互支援を実施する実戦第一号の場となった。</p> <p>◇具体的には、内・外勤の枠を超えて、支援が必要となる業務について、適時に技術的な支援を得ることが可能となった。</p> <p>◇設計変更協議、報告書作成業務などを行うなかで、時間的に自分1人だけでは解決が難しい業務については、所属する作業所や統括する土壌環境グループが一体となり、人的・技術的支援を受ける事ができた。また、近隣や発注者への対応など自らが不在の時間帯における業務を作業所のみにも負担を強いる事なく対応する事ができた。</p>      |   |
|                               | <b>効果 (広がり・変化・影響等)</b> | <p>①成果を上げ、子育て中の女性職員にも監理技術者が務まることを確認できた。</p> <p>②当社では初の女性監理技術者ということ、また子育て中でも監理技術者の職務を遂行する事が可能であることが示され、後進の女性技術者の良きロールモデルとなる事が期待される。</p> <p>③女性技術者が現場で監理技術者として勤務していることが、住民説明会等の各種対応のなかで近隣に伝わり、女性が勤務する親しみやすい現場として近隣の方から声をかけられることが増え、イメージアップに大いに貢献している。</p> <p>④協力会社から気さくに声をかけてもらうことで現場でのコミュニケーションが円滑になり、工事上の問題点や改善策に早期に対応できるようになった。</p> |   |